

リリース Vol.1 【2022 年度企画展 開催告知】

名和晃平展

会期：2022 年 6 月 18 日(土) – 11 月 20 日(日) [十和田市現代美術館](#)



《PixCell Saturation#4》2011 年
ミクストメディア、サイズ可変
提供：SCAI THE BATHHOUSE
撮影：豊永政史 | Sandwich
展示風景「名和晃平—シンセシス」（2011 年）、東京都現代美術館
※参考画像

彫刻家 名和晃平による十和田のために制作された最新作を公開

十和田市現代美術館では、2022 年 6 月 18 日(土) – 11 月 20 日(日) まで彫刻家 名和晃平の個展を開催します。名和は 2021 年より寄託作品として当館に《PixCell-Deer#52》を展示しています。近年海外での展示が増えている名和にとって、日本の美術館での個展は 10 年ぶりとなります。この展覧会では、名和の代表作「PixCell」シリーズの《PixCell-Deer#52》を中心に、初公開の新作や近年の作品群を通して、名和独自の彫刻の捉え方を紹介していきます。

名和は、セル（細胞・粒）で世界を認識するという独自の概念を軸に、ガラスや液体などのさまざまな素材や技法を用い、彫刻の新たなあり方を追求しています。《PixCell-Deer#52》は、透明な球体（セル）が鹿の剥製の表面を覆った立体的な彫刻でありながら、セルのレンズ効果によって分解され歪んだ剥製の表面が鑑賞者の視点の移動に合わせて変化してみえる映像的な作品でもあります。

本展ではそのほかにも、流動する液体が無数の泡を生み出す作品や、粘度のある液体の雫がキャンバスの上に符号のようなパターンを描いていく絵画作品などを展示します。多様な素材がおりなす名和作品の世界観を体感できることでしょう。

[展示の詳細は 2022 年 4 月配信予定のプレスリリースでご案内いたします。](#)

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

名和 晃平 (なわ・こうへい)



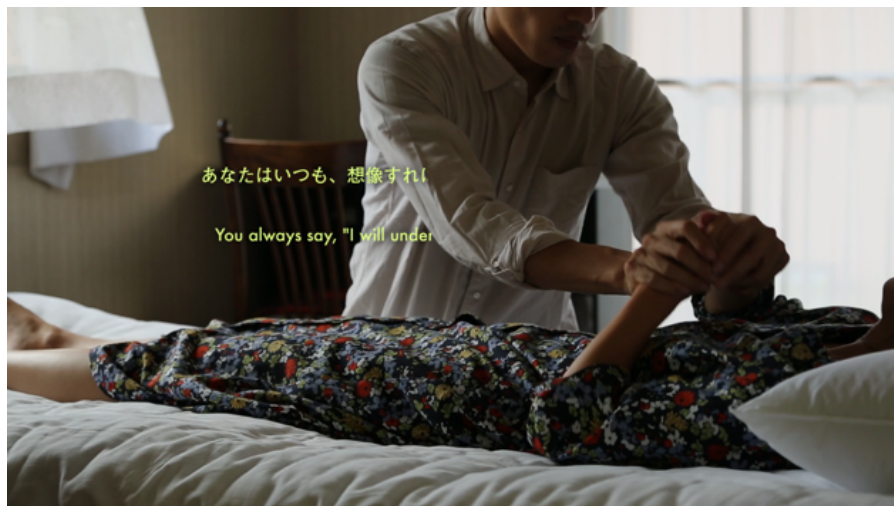
彫刻家。Sandwich Inc.代表。京都芸術大学教授。1975 年生まれ。京都を拠点に活動。2003 年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2009 年「Sandwich」を創設。名和は、感覚に接続するインターフェイスとして、彫刻の「表皮」に着目し、セル(細胞・粒)という概念を機軸として、2002 年に情報化時代を象徴する「PixCell」を発表。生命と宇宙、感性とテクノロジーの関係をテーマに、重力で描くペインティング「Direction」やシリコンオイルが空間に降り注ぐ「Force」、液面に現れる泡とグリッドの「Biomatrix」、そして泡そのものが巨大なボリュームに成長する「Foam」など、彫刻の定義を柔軟に解釈し、鑑賞者に素材の物性がひらかれてくるような知覚体験を生み出してきた。近年では、アートパビリオン「洗庭」など、建築のプロジェクトも手がける。2015 年以降、ベルギーの振付家/ダンサーのダミアン・ジャレとの協働によるパフォーマンス作品「VESSEL」を国内外で公演中。2018 年にフランス・ルーヴル美術館ピラミッド内にて彫刻作品「Throne」を特別展示。

【 開催概要 】

展覧会名：	名和晃平展
会 期：	2022 年 6 月 18 日(土) - 11 月 20 日(日)
開館時間：	9:00 - 17:00 (入場は閉館の 30 分前まで)
休 館 日：	月曜日 (祝日の場合はその翌日) ※最新の情報は web サイトをご確認ください。
会 場：	十和田市現代美術館
観 覧 料：	一般 1800 円。団体 (20 名以上) 200 円引き。高校生以下無料。
主 催：	十和田市現代美術館
後 援：	東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会
特別協力：	ナンジョウアンドアソシエイツグループ
展示協賛：	手塚清、藤波克之 (FSX 株式会社 代表取締役社長 兼 CEO)
展示協力：	ファーストプライウッド株式会社、青森プライウッド株式会社

リリース Vol.2 【2022 年度企画展 開催告知】

百瀬文展

会期：2022 年 12 月 10 日(土) – 2023 年 6 月 4 日(日) **十和田市現代美術館**

《Social Dance》2019 年
シングルチャンネル・ビデオ、10 分 33 秒
※参考作品

新進気鋭の映像作家 百瀬文による美術館での初個展

十和田市現代美術館では、2022 年 12 月 10 日(土) – 2023 年 6 月 4 日(日) まで、百瀬文の個展を開催します。百瀬は主に映像作品で、他者とのコミュニケーションの複層性をテーマとし、身体・セクシュアリティ・ジェンダーに向ける視点を追究しています。本展では、女性声優をテーマにした新作を発表します。日本では、『新世紀エヴァンゲリオン』の碇シンジ(緒方恵美)や『ONE PIECE』のモンキー・D・ルフィ(田中真弓)など、女性声優がアニメ作品で少年役を演じることがよくあります。百瀬は女性声優が少年を声で演じる際の、声優自身の性とキャラクターの性の流動的な関係性に焦点をあて制作します。今回のテーマとつながる過去の作品も出展予定です。存在しているのに、抑えつけられ、ないものとされていたさまざまな声に、耳を傾けてみてください。

[展示の詳細は 2022 年 9 月頃配信予定のプレスリリースでご案内いたします。](#)

百瀬 文 (ももせ・あや)



撮影：金川晋吾

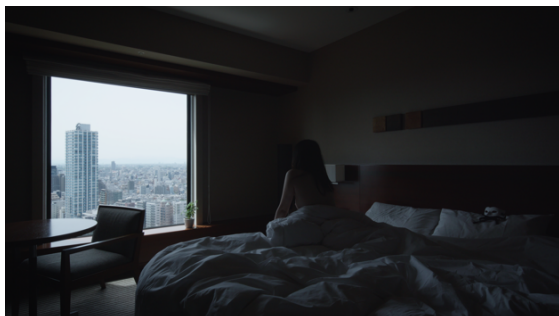
アーティスト。1988 年生まれ。東京を拠点に活動。2013 年、武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。映像によって映像の構造を再考させる自己言及的な方法論を用いながら、他者とのコミュニケーションの複層性を扱う。近年は映像に映る身体の問題を扱いながら、セクシュアリティやジェンダーへの問いを深めている。主な個展に「I.C.A.N.S.E.E.Y.O.U」(EFAG East Factory Art Gallery、2020 年)、「サンプルボイス」(横浜美術館アートギャラリー1、2014 年)、主なグループ展に「フェミニズムズ/FEMINISMS」(金沢 21 世紀美術館、2021 年)、「新・今日の作家展 2021 日常の輪郭」(横浜市民ギャラリー、2021 年)、「六本木クロッシング 2016 展：僕の身体、あなたの声」(森美術館、2016 年)、「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋—日本と韓国の作家たち」(国立新美術館、韓国国立現代美術館、2015-16 年)など。近年は、ACC の助成を受けてニューヨークで滞在制作を行ったほか、イム・フンスンと共同制作した『交換日記』が全州(チョンジュ)国際映画祭(韓国)に正式招待されるなど、国内外で活動を行う。主な作品収蔵先に、愛知県美術館、横浜美術館、大阪中之島美術館などがある。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷(おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【参考作品】



《Flos Pavonis》2021 年
シングルチャンネル・ビデオ、30 分



《Jokanaan》2019 年
シングルチャンネル・ビデオ、12 分 26 秒

【開催概要】

展覧会名：	百瀬文展
会 期：	2022 年 12 月 10 日(土) – 2023 年 6 月 4 日(日)
開館時間：	9:00 – 17:00 (入場は閉館の 30 分前まで)
休 館 日：	月曜日 (祝日の場合はその翌日) ※最新の情報は web サイトをご確認ください。
会 場：	十和田市現代美術館
観 覧 料：	1800 円。団体 (20 名以上) 200 円引き。高校生以下無料。
主 催：	十和田市現代美術館
後 援：	東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com